

講演会で開会の挨拶をする中島住職。



衣替え

梅窓院二十五世
中島真成

六月を迎え、衣替えの時期となりましたが、皆様におかれましては、お変わりない事と存じます。

この衣替え、お坊さんの世界にもありまして、これから夏用の涼しい衣となります。心頭滅却すれば火もまた涼しなどといいますが、修行が足りない？せいか、お坊さんみんな衣を変えています。

さて、梅窓院の衣替え、新本堂建設ですが、おかげさまで順調に進んでおります。またこれからはこの工事と平行して同じ鹿島建設さんによる墓地の排水工事に取り掛かります。

墓地の排水については、近

隣の皆様にもご迷惑をおかけしている懸案事項であり、整備に取り掛かれることを大変嬉しく思っています。

四面でも触れていますが、今回の排水工事は同時にバリアフリー化の第一歩ともなります。

具体的には墓地内の道路を排水性の高いものに変え、ともに段差をなくします。また直接地下の水脈へ流す排水用井戸を何本か掘りますので、かなりの雨にも充分対応できるようになります。

従来まで、大雨の時にはボチボチ通りへ大量の雨水が流れましたが、今後はご迷惑をお掛けせずに済むと思います。

また、墓地内に水屋を数ヶ所増やす予定ですし、電灯も新設いたします。

梅窓院は場所柄もあり、日が早く暮れる冬場など、会社帰りのお参りの方も少なくありません。そうしたことを配慮しての電灯設置です。

こうした大規模な墓地の改修で、皆様のお墓参りがより便利になることと思います。

またこの夏には団体参拝でブラジルとアメリカの浄土宗別院を訪れます。日程的にも長く、また費用も大分かかりますが、こうした機会でもないと訪れることもない場所かと思しますので、どうぞご参加下さい。



最後に写真の説明をさせていただきます。この写真は四月の文化講演会での挨拶で、当日は岡村隆二先生に氣の實踐も交えていただきました。気の講演をいただきました。氣の持ち様で、まわりの見え方も変わってきます。せつかくの衣替えの季節、心の衣も変えられるといいのですが……。話は変わりますが、この三月、大僧都に進叙され、衣が紫となりました。これも皆様のおかげです。ありがとうございます。ございました。

さて、いよいよ夏を迎えます。どうぞご自愛されますよう祈念申し上げます。

行事予定

念仏と法話の会

六月十四日(金) 午後一時～
法話 静岡教区
善龍寺住職 向山瑞成上人

孟蘭盆会法要

七月十三日(土)
午前十時半～ 飯本堂にて

施餓鬼会大法要

七月二十一日(日)
午後三時半～ 飯本堂にて
〔詳細は三面へ〕

秋の日帰り団体参拝

十月十九日(土)
西方寺・河口湖方面
〔詳細は次号にてお知らせします〕



忍野八海で癒しの時を。

梅窓院通信

南米浄土宗別院日伯寺と

北米浄土宗別院参拝の旅

8月23日(金)～9月4日(水) 13日間

浄土宗ブラジル開教50周年を記念して、祐天寺・傳通院・梅窓院の共同企画により、サンパウロ、ロサンゼルス、メキシコシティの浄土宗別院を参拝します。参加をご希望される方は、下記の旅行代理店までお問い合わせ下さい。

〔詳細は別紙をご覧ください〕

問い合わせ先 03-3405-8102

ITPツアーズ 担当



ブラジルのマリニガ市日伯寺。



イグアスの滝。

青山 梅窓院史

《寺報『長青』発行される》

その八

手元に、四隅が黄ばみ、古くなった紙の独特な匂いのするB5版、二つ折りの寺報がある。

「昭和七年十月十日発行『長青』第壹號」と旧字で書かれた記念すべき梅窓院の寺報第一号だ。

先々代の中島真孝先生が創刊したこの『長青』は二号目ながら、戦争による紙不足となつた十八年七月まで、十二年間続いている。



記念すべき『長青』第壹號。

一月、四月、七月、十月の年四回発行が十年間、そして十七年は年三回、最後の十八年は最終十月号のみとなつたものの、全四十一号におよぶ発行は特筆に値するものだ。前回、真孝先生の梅窓院入山、芝学園、大正大学での教鞭など、先々代の忙しさを伝えたが、そうした中での発行しかも定期的な刊行がいかにも大変だったかは、いうまでもない。

今のようにコンピュータや印刷技術が進歩していない当時の苦労は想像におよばない。檀信徒への想い

さて、この第一号上段に「御挨拶」と題された一文が載っている。

「去る六月十八日に当院の住職を云い付かりましてから早くも四ヶ月を経過して居ります。」

こう始まる挨拶文には、忙しい身となつてお檀家さまに對して十分に親しみを持つ機会が得られないことを深く慙愧し、そのかわりにこの小さな通信をお手許に差し上げる旨が書かれている。

住職としての、あるいは僧侶としての想いや考えを、お檀家さんに伝えるという重大な役割をこの寺報に託している真孝先生の気持ちに余すところなく伝わる一文だ。

また、かなわなかったものの将来は月刊にしたいとの希望も書かれ、檀家に対する真摯な態度があらわれている。さらに紙面を読み進むと、「安らかな生活」、「お十夜の話」といった原稿、一面の「お慈悲のたより」と行事のお知らせ、三面の檀信徒からの投稿、四面の「仏教とは何ぞや」と頁が続き、仏教の話を中心にした編集方針が明確に出ている。

執筆者は真孝先生を中心に、し、朋友知己となる先生方の原稿、そして親戚の方と幅広く。決してこつていているというデザインではないが、少しでも檀信徒の皆様が仏教を、浄土宗をわかってもらいたいという意気込みあふれる紙面だ。さて、一昨年六月にこの『青山』が創刊され、その時の編集部の「五十六年ぶりに発行する梅窓院の寺報なのです」という言葉が思い出された。

紙や印刷は変わっても寺報という紙面に込める思いは昔も今も何のかわりもないものである。

梅窓院に集った人々

さて、このかつての寺報にはいろいろな方々の原稿が載っている。中でも面白いのは後半の号の紙面の最後を飾る

先生の原稿だ。
先生は京都の仏教専門



梅窓院での思い出を語る、百万遍知恩寺御法主、

また、真孝先生の長男で、先代となられた真哉先生も原稿を寄せられている。お二方が原稿をよく書かれるようになった頃はすでに戦争もその激しさを増していて、執筆するにも何かと気をつかうなど、大変な時期であつたことが読み取れる。

印刷物というものは、後世に色々なことを伝えてくれる。真孝先生はそんなことも考えていたに違いない。

(ルポライター 真山剛)

お盆とお施餓鬼

施餓鬼塔婆申込み

同封のはがきを使い六月三十日必着でお申込み下さい。塔婆回向料は一本一万円とさせていただきます。参加人数もご記入下さい。

お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、当院受付までお持ち下さい。(銀行でのお振込みは出来ません。)

仏教研究所
だより

念仏と法話の会
三月十四日(木)

今回のお話は蘆谷副住職にして頂きました。中でも先々代中島真孝師に纏わるお話は梅窓院の歴史を感じさせる貴重なものでした。

※予定していました水科善隆上人による法話は、都合によりお休みとなりました。

梅窓院

孟蘭盆会法要

七月十三日(土)

法要 午前十時半(仮本堂にて)

※同封の回向用紙をご持参ください。法要にて回向致します。(書き方は別紙参照)

梅窓院

施餓鬼会法要

七月二十一日(日)

法要 午後三時半(仮本堂にて)

※仮本堂の為、お齋を出す事が出来ません。お持ち帰り用のお弁当を用意させていただきます。

※施餓鬼塔婆は法要が長時間にわたる為、事前に回向させて頂いておりますのでご了承ください。



こちらは一例です。出来る範囲で飾りましょう。

精霊棚の飾り付け

お盆の間、仏壇の前にご先祖さまを迎える為に設けます。

小机を用意し、真菰(まこも)のごぎを敷きます。(テーブルクロスで代用可)

その机に御位牌を中心に、過去帳・香炉・灯明など仏壇から出して並べます。

季節の花を飾り、果物・野菜・菓子、または故人の好物などを供えます。

ご先祖さまが行き来する乗り物として、キュウリの馬、ナスの牛を供えます。(野菜に割り箸で足を付けたもの)

ハスの葉(お皿でも可)の上に、ナスとキュウリを賽の目に切って、洗い米とを混ぜたものを供えます。これは「水の子」と呼ばれ、ご先祖さまだけでなく、全ての仏を供養するという意味を持ちます。

小鉢にお水を入れて供えます。この水は「闕伽(あか)」と呼ばれ、ミソハギ(檜でも可)を束ねたものと一緒に置いて、供物を清める為に使います。

○施餓鬼会法要は、午後三時半“からになりました。ご注意ください。

墓地整備に関するお知らせ

梅窓院バリアフリー計画

檀信徒の皆様にかねてからお知らせ致しておりました墓地排水路整備工事でございですが、整備計画図案の作成が完了しましたのでお知らせ致します。

主旨と致しましては、降雨時において何度も梅窓院墓地より水が溢れ出たことにより、近隣住民より再三にわたる対策要望が起きています。この問題では港区の指導も受け、早急な対応が必要とされていきます。

梅窓院としましては暫時対応を行ってまいりましたが関係各方面と検討を重ねた結果、根本的対策として各種排水溝及び多数の井戸の新設が必要との技術的結論を見るにいたしました。またお檀家の皆様より要望が強く出されていた主要参道のバリアフリー化や水屋の増設・夜間照明の設置などの墓所整備もあわせて行う必要があります。墓所の整備財源は主に新規墓地購入の冥加料を宛ててまいります。現在来年夏の完工に向けて本堂再建中であります。この期間内に付帯工事として墓所整備を行うことにより全体経

費の削減が可能となり、お檀家様に一切の金銭的負担をかけずに墓所整備を完遂することができま

す。この墓所整備は、申すまでも無く多数の檀信徒の方々の移転協力なくしては不可能であります。移転、改修をお願いする方には六月より個別にご案内させて頂きます。本計画へのご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

梅窓院住職 墓地管理責任者
中島真成

梅窓院墓所整備予定

整備期間 本年六月より

◆六月～八月

整備地区内 移転・改修対象の方への御案内・ご説明

◆六月～

対象墓地一部移設開始

◆十月初彼岸後～

排水工事・墓所整備着手

来年春彼岸 整備終了

整備担当

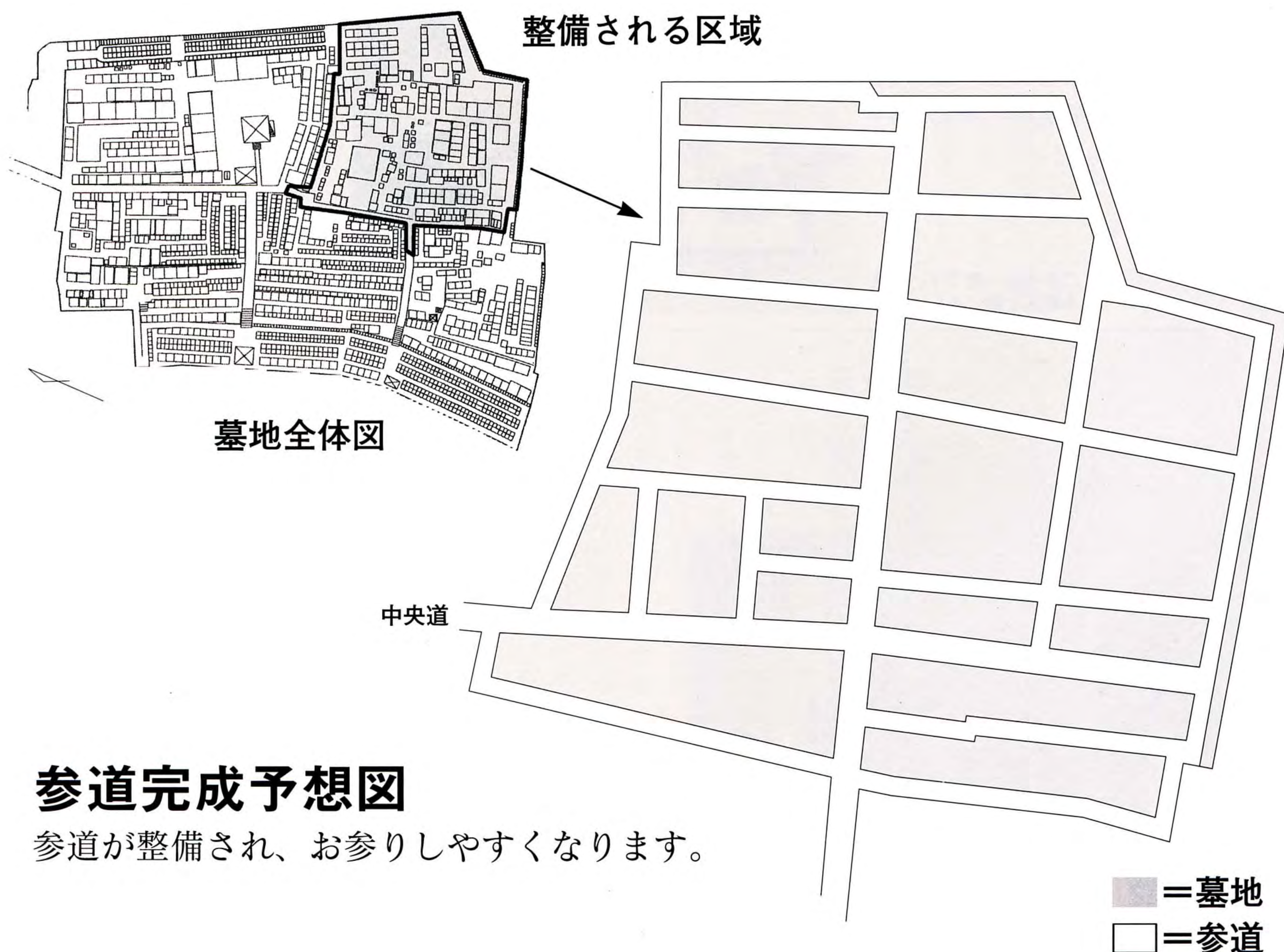
(株)日本エキスパートシステム

(梅窓院墓地担当会社)

施工業者

鱸猛麟石材店/ジョウコウ

埼玉石材/ヤマト石材



梅窓院を

囲む人々

今回は梅窓院に通って五十年という、目黒区八雲の丸石クリーニングさんにご登場いただきました。

丸石クリーニング

さん

梅窓院さん、
そして中島さんは
昔から大の
お得意さんです。



八雲のお店の前で奥様と。

「確か昭和三十四年でしたか、二十七歳で結婚し、同時に独立して店を持たせてもらったのが。
自分で店を開く時、お客さんは一から開拓するもので、以前にお世話になっていた店でのなじみ客をそのままお客さんにすることはできません

でした。

それが業界の常識です。ですが、梅窓院の先々代の奥様からお声がかかったのです。『これから家に来なさい』と。もちろんお断りしました。

すると奥様が、以前私が勤めていた博信舎にお話しをして下さいましたところ、『梅窓院さんの仕事は任せよう』ということになったのです。

ありがたかったですね、本当に。何しろ開店したばかりでお得意さまがいない状態でしたから。」

以来、梅窓院は丸石クリーニングのお得意さまとして今日に至っている。さんは勤めていた博信舎時代の八年を含めると五十年、半世紀の間この梅窓院に通っていることになる。

昔は週に三回、今は週に二回通っている。ざっと計算しても七千日以上。仕事とはいえ、梅窓院にこれだけ通っているのは、さんをおいて、他にはいないかもしれない。

「いま思い返すと不思議ですが、五十年も来てるのに梅窓院さんの仕事では、アイロンで焦がしたり、無くしたことはないですね。

きつと仏さまのご加護ですかね。」

さんは昭和七年、新潟の直江津市に生まれた。現在の上越市で、田舎の菩提寺は

浄土真宗だそう。

北陸といえば浄土真宗のお寺が多く、真宗王国と言われるぐらいで、いわゆる真宗の門徒さんである。しかし田舎の菩提寺を守る親戚も今はいなくなり、さんも世田谷の真言宗のお寺にお墓を持っている。

「奥様から『今度、梅窓院がお墓を増やすから、石野さんもいかが』と言われる直前にお墓を買い求めていたのです。ちょっとずれていたら、梅窓院の檀家になれていたかもしれないのですよ。」

そんな、さんに忘れられない二つの思い出がある。一つは、年末に集金に行かなかつた時、奥様から「なぜ年末に集金に来ないのですか。商売をするということは、すべき時にすべき事をなす、ということなのですよ。」と怒られたこと。

もう一つは先々代の思い出で、先々代がある時、こう聞いてきたという。

「君は僕のことを恐いかね？みんな僕を恐い恐いというのだが、僕自身は自分のことを優しいと思っている……どうだね、恐いかね？」

この質問に、さんは困ったそう。本音を言えば恐いのだが、こう聞かれては恐いと言えず、「いいえ、恐くありません。」と答えたとい



八年前の京都旅行での一枚。

う。今でもその時の方丈さんの嬉しそうな顔を覚えているというから、とても印象的な出来事だったようだ。



湯河原への家族旅行は毎年恒例のお楽しみ。

さんのお店も奥様と二人で切り回している。毎日お客さまの所を回り洗濯から乾燥、アイロン掛けという作業が、さんの日課で、なかなか大変そう。

「この仕事は確かに大変ですけれど、お得意さまと長くお付き合いできたり、自分の納得のいくまで仕事ができま

す。アイロン掛けも真剣にやると一枚一枚が勝負で、楽しいものですよ。」

この、さんの言葉は、五十年続けてきたその歴史がまさに裏付けている。さんのクリーニングという仕事への愛情はまだまだ続くに違いない。



さん撮影の梅窓院。(昭和三十七年)

文京 あじさいまつり



6月中旬頃、白山神社にて開かれる文京あじさいまつりをご存知ですか。梅雨時には境内から白山公園にかけて3,000株のあじさいが咲き誇り、それはまるで宝石のよう。期間中はあじさいの鉢植市も開催され大変にぎわいます。土、日曜を中心にイベントも盛りだくさんです。札所巡りの際、ちょっと足を伸ばして訪ねてみてはいかがでしょうか。

※白山神社／都営三田線・白山駅徒歩3分／営団南北線・本駒込駅徒歩5分



都営三田線・白山駅徒歩五分

白山通りから一步入った住宅街にある圓乗寺。慈覚大師作と云われる秘仏聖観世音菩薩は、戦災の為惜しくも焼失しましたが、その後復元されました。

境内には八百屋お七地蔵堂があり、昔より縁結び、火防、芸道上達祈願に、多くの参詣者が訪れます。

第十一番 南縁山圓乗寺 本尊 聖観世音菩薩 釈迦牟尼如来

浅草から目黒まで、ぐるり東京一周江戸観音札所巡りの旅。シリーズ第四弾では寺院仏閣も多く、ゆつくり散策が楽しめる文京区を訪ねます。

江戸三十三観音 札所めぐり 第四回



第十番

湯崎山常光院 浄心寺 札所本尊 十一面観世音菩薩 (子育て観音)



南北線・本駒込駅徒歩五分

本郷通りに面する浄心寺。境内に入ると満開の桜が咲き誇り、春の香りが漂いました。札所本尊である十三尺の十一面観世音菩薩をはじめ、大勢至二菩薩、十六尺の阿弥陀如来が安置されており、その大きさもまた充分に見ごたえのあるものでした。

第十二番 無量山傳通院 本尊 阿弥陀如来 札所本尊 無量聖観世音菩薩

慶長七年(一六〇二)、徳川家康公の生母、於大の方を埋葬。後に堂宇を建立し傳通院となる。浄土宗の関東十八檀林の一つで、常時千人の学僧が修行していました。境内には、於大の方、千姫(徳川秀忠の長女)をはじめ徳川家ゆかりの女性の墓が数多くあります。



丸ノ内線・後楽園駅／都営三田線・春日駅から徒歩十分(バスあり)



第三十一番 未	第二十八番 未	第二十五番 未	第二十二番 未	第十九番 未	第十六番 未	第十三番 未
第三十二番 未	第二十九番 未	第二十六番 未	第二十三番 未	第二十番 未	第十七番 未	第十四番 未
第三十三番 未	第三十番 未	第二十七番 未	第二十四番 未	第二十一番 未	第十八番 未	第十五番 未

第十二番
傳通院

第十一番
圓乗寺

第十番
浄心寺

第一番 浅草寺	第二番 清水寺	第三番 大観音
第四番 回向院	第五番 大安楽寺	第六番 清水観音堂
第七番 心城院	第八番 清林寺	第九番 定泉寺
第十番 三尊櫻観音	第十一番 圓乗寺	第十二番 傳通院

江戸三十三観音御朱印

読者の広場

お布施の意味について教えてください。

(世田谷区 Yさん)

布施の語源は、ダーナ(旦那)・支える・庇護するの意である。旦那・檀家・旦那寺はその派生語である。而して、布施には三施ありとす。財施(物質的)・法施(知的)・無畏施(精神的)の三種の施し方である。また、持たざる物の施しとして「無財の七施」といわれるものがある。即ち言辭施・眼施・和顏施・心施・身施・床座施・房舎施を言う。柔らかなる言葉と、優しい眼差しで、笑顔を絶やさず人に心を思いやり、体、手足を動かしてどうぞこちらで休んでおいでなさい。という日常のさりげない生活そのものが、布施行となるのである。要するに、その気になれば今の立場で誰にでもできる行為であり、他を思いやる心、即ち慈悲の心こそその根底にあるのである。しかし、布施は施す物と施す人施される人の三者の心が清浄でなければならぬ(三輪清浄)という条件があることも忘れてはならない。

(蘆谷)

※仏事に関するご意見ご質問、お待ちしております。
港区南青山二・二六・三八
梅窓院 青山文化村宛

「諸病を癒す」ハチミツは

食養研究家
武鈴子

食は命なり

第七回

お釈迦様の常食は「石ミツ」であったとされています。石ミツは牛乳から水分を取り除いて、ハチミツを加えた固形物のことです。仏典に「ハチミツは諸病を癒す」と、記されているように、古代インドや中国、ギリシャ、ローマなど洋の東西を問わず古来より薬効の高い食品として珍重されてきました。欧米では牛乳にハチミツを混ぜて飲むのが常識で、ハチミツを「黄金色の驚異」と呼んでその優れた効果を讃えています。

ハチミツは昔から糖尿病に良いとされてきましたが、漢方では脾胃の薬として広く利用され、胃弱や便秘症に、また解毒作用があるので肝臓病に、体の乾燥を潤して肌をつややかにし、火傷やひび、あかぎれなどの炎症を鎮めて痛みを止めるなど実に広い効果があります。

骨粗しょう症予防やカルシウム補給に牛乳を飲んでいる人が多いようですが、ハチミツはカルシウムの吸収率を高める作用があるので、牛乳を飲むときはハチミツを少し添加して「ミルクハニー」にするとより効果が高まります。

また、視力が衰えている人、肝臓や胆のうが疲れぎみの人は、レモンの絞り汁にハチミツを加え、水かお湯で薄めて「ハニーレモン」に。コレステロール・中性脂肪が気になる人は、練りゴマにその半分量のハチミツを混ぜて練り合わせ「ゴマハニー」を作ってバターの代わりにパンに塗って食べるとよいでしょう。お釈迦様が「石ミツ」として牛乳とハチミツを摂取されていたのも大変理にかなったことなのです。

TEL 03-3401-2843

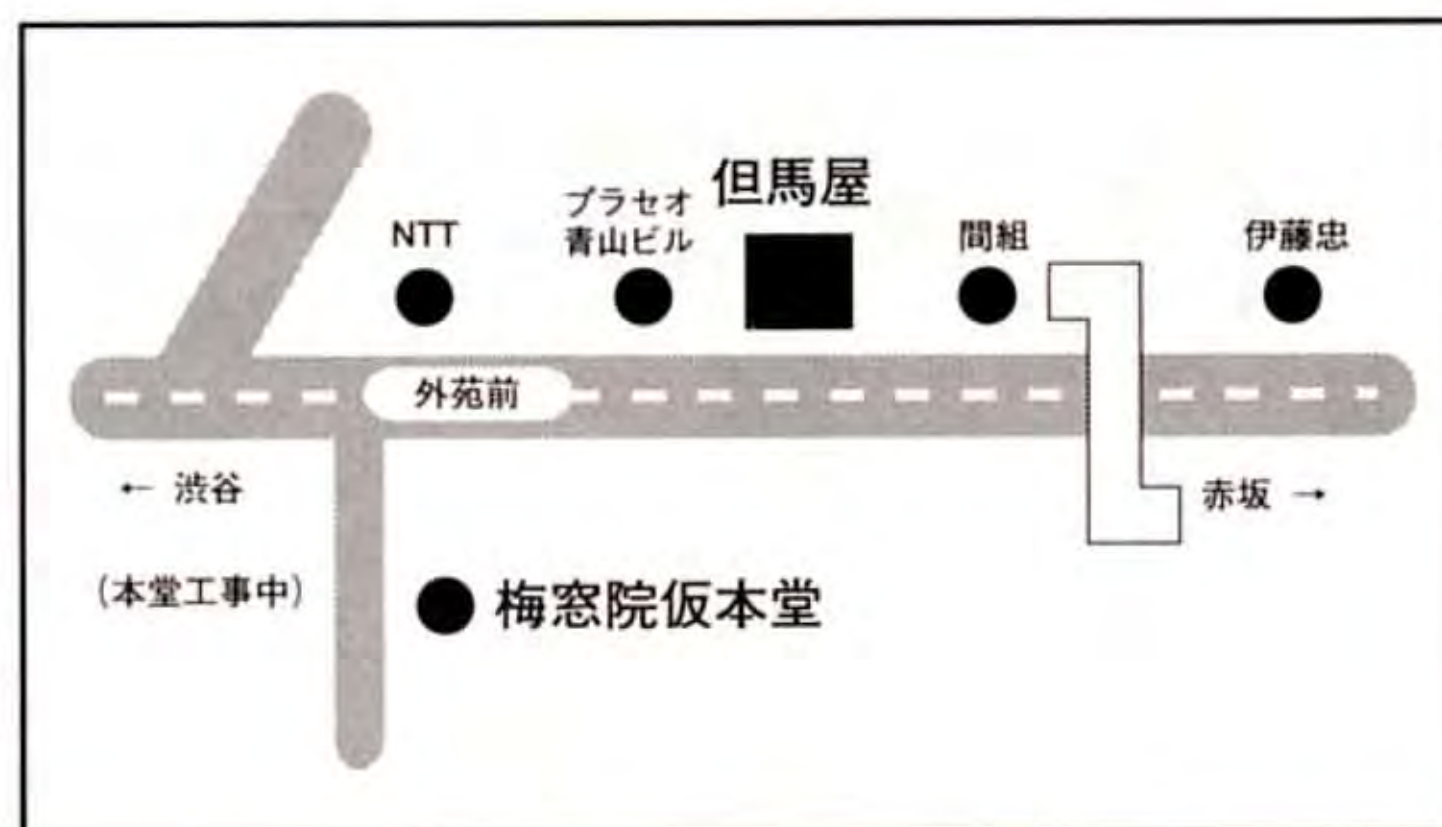
港区北青山2-7-11

営業時間 平日 9:00~20:00

土 10:00~18:00

日祝 10:00~17:00

定休日 第2日曜



お勧めの落花生は量り売りもしてくれる。



煎りたてを一つ一つ丁寧に選別する店長。



青山
但馬屋

青山散歩道

創業明治二十七年。青山の地で、世代を超えて親しまれ続けているのが、この豆菓子のお舗但馬屋さんです。店内には一番人気の千葉産

特選落花生をはじめ、八十種以上もの豆菓子やおかき並び、おつまみからお茶請けまで何でも揃います。毎週火・金曜は落花生、水曜は落花生の砂糖掛け、第二・四水曜は揚げもちの実演があり、香ばしいかおりが店内いっぱいにひろがります。出来たてを片手に、お散歩や野球観戦もオツなもの。ぜひ覚えておきたい一軒です。

青山俳壇

選者・『俳句朝日』顧問 大崎紀夫

おぼろ／植木市

◎特選

小学唱歌ついで口出るおぼろかな

(評) 朧の夜、ふつと口からもれた小学唱歌。心の奥の方で朧につき動かされる何かがあったのでしよう。その不思議な一瞬をとらえた佳吟。

◎佳作

月おぼろ大和三山視野のうち

なつかしきお国訛りや植木市

微酔の足元ゆらすおぼろかな

赤い実をつけしひと木や植木市

あこがれを満たす山なみ月おぼろ

草取りの休むは取りし草の上

◎選者詠

根をつつむ藁あたらしき植木市

大崎紀夫

ウンポイントアドバイス

旧仮名遣いの使い方

「老い」を間違つて「老ひ」と使う方が多いです。「老い」の終止形は「老ゆ」なので、や行の動詞活用となります。

投句募集

今回のテーマは「かき氷」「かたつむり」です。7月20日を締切、9月上旬発送の『秋彼岸号』にて発表させていただきます。住所、氏名、年齢をお書き添えの上、ご応募下さい。お待ちしております。※港区南青山2-26-38

梅窓院

「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集
青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、左記の番号までご連絡ください。
※ウエップ編集室
電話〇三(五三六八)一八七〇

・ 行 ・ 事 ・ 報 ・ 告 ・



介護入門教室

二月二十三日 仮本堂にて

ご縁のある東京芝ロータリークラブ主催で、青少年介護入門教室が開催されました。参加した小学生は、特殊な服を身に付け、八十歳代の身体を体験。普段では気づかない日常生活での困難を実感していました。福祉への関心が一層高まったようです。



車椅子の操作を体験。小さな段差も大変です。

春彼岸寄席

三月二十一日 仮本堂にて

恒例となりました彼岸寄席。今回は入船亭扇好師匠にお越し頂きました。軽快で絶妙な間が魅力的な師匠の一席で、会場は終始笑いの渦に包まれました。



テンポよい小噺で大爆笑。

詠唱大会

四月四日 増上寺にて

創立二十周年の節目を迎えた増上寺吉水講。今年も梅窓院からは二十名の講員の方がこの詠唱大会に参加されました。奉納曲は「霊まつり和讃」。お揃いの制服を着た講員さんたちが、日頃のお稽古の成果を十分に発揮されていました。



増上寺大殿前にて記念撮影。

第三回文化講演会

プラス思考の生き方
「氣の活用」

四月六日 仮本堂にて

今年で三度目を迎えた文化講演会。今回は「氣の活用コム」理事長の岡村隆二さんにお越し頂きました。

講演では、参加者全員で実際に「氣」を出す体験や呼吸法を行い、「氣」の持つエネルギーに触れていきました。

終了後には、参加者の方から「リラックスできた。」「日々の生活にも氣を活用したい。」など、たくさんの声を頂戴しました。

◆ 梅窓院だより ◆ 復興事業新着情報



来寺される皆様へ

○工事中の為、只今駐車場はありません。車での来寺はご遠慮下さい。

○墓地にガラス等の割物を置くのは大変危険ですのでおやめ下さい。

○墓苑内にごみ箱を増やしました。ご利用下さい。

新本堂建設地（五月七日撮影）



実演は好評。活気ある講演会となりました。